

令和7年度 事務事業マネジメントシート		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価					5796	食育推進事業					保健福祉部	保健所健康づくり課
1 事業概要		中事業番号		1770									所属コード	215600
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）		
大綱（取組）	Ⅳ「誰もが地域で輝く未来」	1.3 2.1 2.2 3.4		5-3			○	○			・第四次郡山市食育推進計画(2023～2025年)に基づき食育を推進するとともに、郡山市健康づくり推進懇談会連絡調整会議・郡山市健康づくり推進懇談会において、計画の進捗状況の確認や意見交換等を行い、効果的に食育を推進する。 ・ウェブサイト、展示等を通して広報等あらゆる機会に食育を周知啓発する。 ・食育推進ボランティアの派遣事業により、市民に「食」の大切さを伝え、食育の普及や食育活動を支援することで食育を推進する。	市民が「食」に関する知識を習得するとともに、「食」を選択できる力を育む。生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育を推進し、健康なこころとからだをつくることができるよう食育を推進する。		
施策	4 誰もが健康で生きいきと暮らせるまち	10.2 12.3												

事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）		住民意向分析	
平成24年、第二次郡山市食育推進計画が制定され、平成25年度から平成29年度までの指標や目標値が設定された。 今後も継続して食に関する知識・選択力の習得、健全な食生活の実践ができるよう食育運動を推進する。		第四次郡山市食育推進計画（2023～2025年）の基本理念「食育を通して健康で安心して生きいきと暮らせるまち こおりやま」に基づき、食を取り巻く環境の変化やライフスタイルの多様化を踏まえ、食生活の乱れ、栄養の偏りや肥満の増加等の課題を目標項目として設定し、食育を推進している。		高齢化が進行する中で、健康寿命の延伸や生活習慣病の予防が引き続き課題であり、栄養バランスに配慮した食生活の重要性が増している。 少子高齢化、世帯構造の変化や中食市場の拡大が進行するとともに、食に関する価値観や暮らしの在り方も多様化し、健全な食生活を実践することが困難な場面も増えてきている。		栄養バランスのとれた食事の実践や減塩などの取組において、個人の努力だけでは改善が困難な状況も見られることから、健康無関心層も含めて自然に健康になれる食環境づくりが求められている。	

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）		2024年度（令和6年度）		2025年度（令和7年度）		2026年度（令和8年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	市民	人		324,586		322,515		319,680								
活動指標①	食育周知啓発用リーフレット等の配布（計画本編・市民版等）	枚	4,000	4,042	4,000	8,256	4,500	3,225	4,000		8,000		4,000	4,000		
活動指標②	食育推進ボランティア活動回数	回	45	36	45	46	45	54	50		50		50	50		
活動指標③																
成果指標①	～R4市民の認知度/R5～毎日野菜をほとんど食べない(小鉢2皿以下) 人の割合	%	100.0	96.1	72.0	77.4	72.0	79.8	75.0		75.0		75.0	75.0	72.0	72
成果指標②	毎日朝食を摂取している人の割合	%	100.0	86.6	100.0	86.8	100.0	85.4	100.0		100.0		100.0	100.0	100.0	100
成果指標③	健康維持のための食生活を心がけている人の割合	%	90.0	88.7	90.0	87.4	90.0	87.0	90.0		90.0		90.0	90.0	90.0	90
単位コスト（総コストから算出）	～R4認知度1％あたりのコスト/R5～毎日野菜をほとんど食べない(小鉢2皿以下) 人以外の割合1％あたりのコスト	千円		84.6		245.1		519.0	380.1		380.1		380.1	380.1		
単位コスト（所要一般財源から算出）	～R4認知度1％あたりのコスト/R5～毎日野菜をほとんど食べない(小鉢2皿以下) 人以外の割合1％あたりのコスト	千円		84.6		245.1		519.0	380.1		380.1		380.1	380.1		
事業費		千円		952		341		3,723	4,321		4,321		4,321	4,321		
人件費		千円		7,176		5,198		6,760	5,198		5,198		5,198	5,198		
歳出計（総事業費）		千円		8,128		5,539		10,483	9,519		9,519		9,519	9,519		
国・県支出金		千円		0												
市債		千円		0												
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		0												
その他		千円		0												
一般財源等		千円		8,128		5,539		10,483	9,519		9,519		9,519	9,519		
歳入計		千円		8,128		5,539		10,483	9,519		9,519		9,519	9,519		
		実計区分	評価結果	拡充	継続	継続	継続	継続		継続						

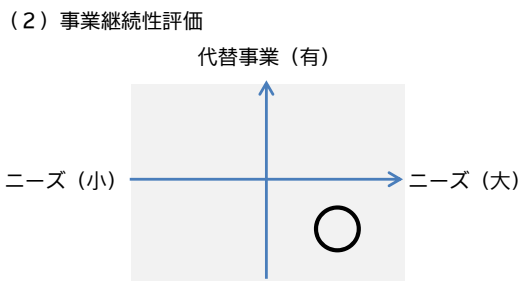
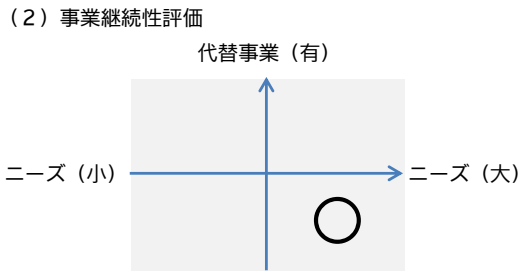
活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費（事業費・人件費）分析結果	
①第四次郡山市食育推進計画（市民版）の健康教室やイベント等での配布、小学1年生とその保護者へ食育に関するチラシの配布を行った。計画策定2年目のため前年度と比較すると計画本編や市民版の配布数が減少したが今後も食育に関する周知啓発を継続していく。②ボランティアの派遣要請が増え、前年度より活動回数が増加した。今後もボランティアの募集や育成を継続して行い広く周知を図っていく。		成果指標①～③については、ネットモニターの調査から評価している。①「毎日野菜をほとんど食べない人の割合」②「毎日朝食を摂取している人の割合」③「健康維持のための食生活を心がけている人の割合」は、ほぼ横ばいで経過している。朝食の摂取については、85.4の摂取と高いが、20代～40代においては、他の年代と比較すると欠食が多く見られることや健康維持のための食生活を心がけている人の割合も低いことから、若い世代・働き世代へ、ウェブサイト、出前講座等により食と健康に関する周知啓発を行う等、働きかけが引き続き必要である。		【事業費】令和6年度は第四次郡山市食育推進計画の評価及び第五次郡山市食育計画策定根拠資料のため、市民アンケートを委託により実施したため事業費が増加した。	
				【人件費】第四次郡山市食育推進計画の評価及び第五次郡山市食育計画策定準備を実施し人件費が増加した。	

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価			
1 規模・方法の妥当性		3	
2 公平性		4	
3 効率性		3	
4 活動指標（活動達成度）		4	
5 成果指標（目的達成度）		4	

4 二次評価

(1) 事業手法評価			
1 規模・方法の妥当性		3	
2 公平性		4	
3 効率性		3	
4 活動指標（活動達成度）		4	
5 成果指標（目的達成度）		4	



継続	一次評価コメント
継続	市民の健康づくりとして、健全な食生活を実践することが必須である。食生活を取り巻く環境の変化等により、食生活の乱れや栄養の偏りによる生活習慣病の健康課題など様々な課題があることから、生涯を通じて食育の推進を図るため、継続して事業を実施する必要がある。食育推進ボランティアの活動は派遣要請が増加し、実績は増加している。また、令和6年度は郡山市食育推進計画（2023～2025年）に基づき食育を推進するとともに、現計画の評価と次期計画の策定に向け市民アンケートを実施した。市民アンケートからは、若い世代の朝食摂取率や健康維持のための食生活を心掛けている割合が悪化していることが把握され、健康づくり推進懇談会連絡調整会議・郡山市健康づくり推進懇談会において、計画の進捗状況の確認を行うとともにこれらの課題に対しての意見交換等を行い、今後も効果的に食育を推進していく必要がある。

継続	二次評価コメント
継続	食育推進ボランティアについては年々派遣要請が増えており、保育所や学校に対し食育の普及啓発活動を実施したところである。また、郡山市食育推進計画の評価と次期計画の策定に向け市民アンケートを実施したことから事業費が増加しているが、現状を適正に把握することで今後の食育推進に活用していく予定である。 ライフスタイルの多様化や食環境の変化に対応し、健全な食生活の推進を図るため、今後においても関係各課と連携を図りながら継続して事業を実施する。 なお、アンケートからも、若年層における朝食摂取率の低下や健康維持のための意識の低さが課題となっていることから、結果の原因を分析し、効果的なアプローチを検討する必要がある。

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）

気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協奏
		○

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画